【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鹿島市立鹿島小学校
1　前年度 評価結果の概要	・授業改善について共通理解を行い、職員それぞれがマイプランを作成し、努めてきた。また、「授業づくりステップ１・２・３」を意識した授業が行われるようになってきた。 ・「キャリアパスポート」「一事貫行」において年度初めに目標を立て、継続した取組を実践させることができた。年度末には振り返りを行い、多くの児童が目標を達成することができていた。 ・生活習慣のリズムが取れていない児童が見られ、特にメディア利用の項目については、高学年ほど低い傾向が見られた。「生活リズム100点運動」の実施により改善されつつある。 ・定時退勤日の設定、会議の時間厳守、行事精選等の業務改善を実施し、時間外勤務の削減を行うことができた。
2　学校教育目標	**いのち輝く　鹿島っ子の育成～キラ、ニコ、ドンの鹿島っ子～**
3　本年度の重点目標	**①学力の向上　②特別支援教育の充実　③心の教育・生徒指導の充実　④体力の向上　⑤校内研修の推進　⑥新しい学習指導への対応**

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を75%以上にする。	・マイプランの一覧を作成し，校内研修の一部で紹介し，マイプランを共有する。 ・定期的に校内研修のはじめの時間をふり返りの時間に設定する。	B	・マイプラン一覧の作成と成果指標の提出により、マイプランを共有することができた。 ・全国学習調査の結果を踏まえ、各自で取り組んでいる内容の振り返りをすることができた。	B	・県の学習状況調査・CRT検査の結果を分析し、職員研修で検証をおこない、その補充に力を入れた。また、各自のマイプランの成果指標と内容のふり返りを行うことができた。	B	・調査結果が県正答率より低く、学力低下を感じる。親の関わりが少なく感じる。 ・学習状況調査の結果は分からないが、えんぴつの握り方や平仮名、漢字の書き順等を間違っている子が目立ち、このことは学力に関連すると思う。
	○児童の学ぶ意欲が高まる授業の実践（校内研究の充実）	○国語科を中心に授業づくりに関する研修や研究授業を行い、意識調査において，授業が楽しいと答えた児童の割合を令和元年度よりS ポイント上げる。 ○授業づくりのステップ1・2・3を意識し，ステップを1から2へ，2から3へ上げることのできる教師を80%以上にする。	・事前，事後の研究の充実を図り、児童の興味・関心を高める授業づくりを探る。 ・授業づくりのステップ１・２・３を継続して意識できるようセルフチェックタイムを2ヶ月に1度設ける。	B	・「勉強を最後までねばり強く取り組んでいる」という質問事項に対し「できている」「まあまあ」と答えた児童は92%であった。 ・7月の合計点より10月の合計点が上がった教師は52%であった。32%の教員は7月の授業力を維持している。まずは、比較的ステップアップが臨みやすい「めあて」と「まとめ」、「ふりかえり」の項目の数値を上げる呼びかけを進めていきたい。	B	・全ての学級で授業研究を行い、研修に取り組むことができた。CRTのアンケートにおける「教科学習への興味関心」の項目が全国より10ポイント下回る結果であった。また、CRT、学習状況調査において全ての学年の結果が学力の定着が十分とはいえない結果であった。 ・7月の合計点より最終の合計点が上がった教師は75%であった。	B	・「分からない」「つまらない」等の意欲減退にならないようにフォローをしてほしい。タブレットの持ち帰りは、保護者も一緒に課題に向き合えてよかった。 ・全ての学級で研究授業に取り組まれていることは素晴らしいので、今後も続けてほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○命や人権について考える授業や集会を行い、保護者アンケート「学校は心の教育や命の大切さなどを熱心に指導している」において80%を目指す。	・友達の優しい言動を見つけたら葉っぱに記入して貼っていく「やさしさの木」の取組を年間通して行う。 ・9月に「ふれあい道徳」を設定し、保護者も一緒に考えてもらう場面を設定するなど、参加型の授業づくりを行う。	B	・前期の振り返りでは、「友達に嫌なことを言ったりしたりしない。」児童は88%、「自然のものや命のあるものを大切にしている。」児童は95%であった。 ・友達の優しい言動や頑張りを見つめる時間として、毎月第一月曜日の朝の時間が「あったかタイム」として設けたことで、クラスのいいところを見つける意識は高まっている。今後は、学級間、学年間でもいいところを見つけていけるよう声かけを続けたい。	A	・「あったかタイム」の定着により、友達のいいところに目を向けることができるようになった。そして、保護者アンケートでは「学校は心の教育や命の大切さを熱心に指導している」において、92%であった。 ・ふれあい道徳に関しては、参加型が難しい状況だったので、保護者と一緒に考える場を設定したり、感想を書いてもらったりした学級が多かった。	A	・学校の取り組みで、児童の変容が保護者に伝わっていると思うので、習慣化するようにしてほしい。 ・いろいろな取り組みで、子ども達が命の大切さや優しい心、豊かな心を身につけていくことができているように感じる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○年2回(5月、10月)、心のアンケートを実施し、「学校が楽しい」と答える児童の割合で80%を目指す。	・困り感や侵害意識のある児童を把握し、早期発見、早期解決を図る。 ・教育相談週間を設け、児童一人ひとりの思いを受け止める。	B	心のアンケートでは、5月76%、10月81%の児童が「学校が楽しい」と答えている。6月はアンケート後に教育相談週間を設け、一人一人の困り感や悩みを把握し、救い逃った支援を心がけた。10月は割合が向上したことは喜ばしいが、実際は運動会練習の苦手さや、落ち着いた学習ができないことで悩んでいる児童も多いようだ。今後も児童の共通通理解を進め、気になる児童への声かけ、見守りや学校全体で続けていきたい。	B	教育相談は、今年度20回以上の実施で、児童や保護者の悩みへの早期対応ができている。SCによるこころの授業で、自己肯定感を高める活動をしたり、いじめについて考えたりすることができた。悩みを抱えている児童は引き続き、ケアをしていきたい。	B	・SCのいじめの授業や個別対応のケア等、熱心に対応していただいていると思う。保護者の不安も軽減されるよう、家庭へのケアもお願いしたい。 ・個に応じた指導が十分にできていると思われるので、どう全体指導へ生かしていくかが課題である。
	◎目標達成に向けて努力しようとする態度の育成	◎「一事貫行」に意識して取り組むことができる児童を80%以上にする。	・1年間毎日続けて取り組むめあてを全児童に決めさせ、振り返る習慣をつけて、自分のめあてを日々意識させる。 ・取り組み続けている児童を紹介する場を設け、取り組みが続かない子へも声かけを行っていく。	A	・前期の児童のふり返りでは、一事貫行の取り組みが「できている」「まあまあ」と答えた児童は89%で目標を達成している。また、7月にふり返りを放送で紹介して、意識の継続を図った。今後も継続して取り組めるように、12月に取り組みの紹介をしたり、キャリアパスポートに残したりして、意識を高めていきたい。	A	・後期の振り返りで一事貫行の取り組みが「できている」「まあできている」と答えた児童は88%で目標の80%を達成できた。 ・1年間取り組んだことをキャリアパスポートに残し、来年度への意欲につなげる。	A	・子ども達が意識して取り組めるようにされたことが評価される。 ・自分の子がどのような一事貫行に取り組んでいるか知らない保護者も多いと感じるので、保護者の関心を高め、継続・実践を応援できる仕組みがあれば、尚よいと思う。
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・車による送迎を控えるように保護者に呼びかけ、登下校による歩行時間を確保する。 ・休み時間の外遊びを促すために、県のスポーツチャレンジを活用する。学校独自の「鹿島っ子チャレンジ」の取り組みで表彰をするなど、児童の意欲を引き出す。 ・給食センターから講師を招き、食育指導をする。 ・給食集会を開き、児童が食を大切に考える場を作る（食に関するアンケート2回実施）。	B	・9月、11月には鹿島小独自のスポーツチャレンジの取り組みである鹿島っ子チャレンジを行い、体育の時間や休み時間に運動に取り組んだ。 ・「健康に食事は大切である」と考える児童は97.1%であり、朝食を毎日摂っている児童は89.5%である。 ・「早寝早起き朝ごはん運動」を6月、11月に行い、朝食を摂ることを意識づけている。後期にも実施予定であり、継続して意識させる。 ・給食センターから講師を招き、2、3、5年生を対象に食育指導をしていただいた。	A	・鹿島っ子チャレンジだけでなく、たてわりでの活動の中に大縄大会を入れることで、子どもたちが楽しく、積極的に運動に取り組むことができた。 ・給食週間では食育に関する話を1週間継続的に行い、子ども達に意識させる良い機会となった。 ・給食センターから講師を招き、全学年を対象に食育指導を行った。	A	・朝食抜きの児童も時々いるようであるが、食育指導はとても大事だと思うので、全学年での実施を続けていってほしい。 ・朝の登校の時、少し元気がないときに「おはよう」と声をかけ、「朝ご飯は食べてきたか」と尋ねている。このようなやりとりで明るくなるので、地域としても対話をしていきたい。 ・コロナ禍で、遊びに出ることもままならず、学校で体を動かす時間がとても貴重に感じるので、積極的に運動できる機会が大切であると思う。
	○よりよい生活習慣を求める児童の育成 ・生活リズム　・挨拶 ・掃除　・廊下歩行	○生活習慣の改善が見られる児童65%。 ○語先後礼の挨拶や元気な返事ができる児童80%以上。 ○無言掃除ができる児童85%以上。 ○静かに廊下で過ごせる児童80%以上。	・「早寝・早起き・朝食・メディア・家庭学習」について学期に一度100点運動を行い、生活リズムの改善を意識させる。 ・全校朝会等で、今月の生活反省や実践的指導を行うことで実践への意識付けを行う。 ・全校挙げての挨拶運動を行い、その振り返りを自己評価させることで、自ら気持ちの良い挨拶への実践意欲を高める。	A	・5月に生活リズム100点運動を行い、会計得点では全校で4ポイントの向上が見られた。また、5項目全て項点の向上が見られた。これからも継続し、意識して改善を目指す。 ・「無言掃除」については、89%と目標を上回った。今後も掃除場所に早く行くように声かけをし自主的・自律的な実践意欲を高めていきたい。 ・「語先後礼のあいさつや元気な返事」については、79%と目標にわずかに届かなかった。児童のあいさつエピソードを紹介したりあいさつ応援隊員を募ったりして、全校的に気運を盛り上げていきたい。 ・静かな廊下での過ごし方については、音楽室前でのトラブルが起こるなど、75%で十分にない。廊下での過ごし方の確認をするなど指導を徹底し、児童自身の自己評価を推進し、自律的実践意欲を高めたい。	A	・5月、9月、1月に生活リズム100点運動を行った。5月と比べ2ポイント低下した。長期休暇明けということもあり、早起き、朝食、メディアが低下した。規則正しい生活を見直す良い機会になった。 ・「無言掃除」については、新しい生活ルールを定めた結果、目標数値を上回った。今後も掃除場所に早く行くよう子ども達に十分に伝えるなど、自律的な実践意欲を高めていきたい。 ・「語先後礼のあいさつや元気な返事」については、目標数値に僅かに届かなかった。児童のあいさつエピソードを紹介したりあいさつ応援隊員を募ったりして、全校的に気運を盛り上げていきたい。 ・静かな廊下での過ごし方については、まだまだ十分でない。廊下での過ごし方の確認や指導を徹底したり、生活委員会を中心とした児童の相互評価を推進したりして、自律的実践意欲を高めたい。	B	・挨拶に関しては、目標の近似値が出ているのでA評価でよいと思うが、廊下歩行に関しては、トラブルも起こっており、十分とは言えないと思う。 ・対外的な挨拶も元気よく行ってほしい。 ・言葉遣いが悪い子がいる。子どもがつかう言葉に、もっと神経をつかってほしい。 ・まだまだ挨拶ができる子としない子がはっきりしている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定（毎週水曜日）及び確実な実施（会議等は16：45に終了する）。 ・教職員の時間外勤務について1ヶ月あたり前年度比3%削減する。 ・会議資料の事前配付と提案時間の設定。	A	・毎週水曜日の定時退勤日については、全職員が十分達成できたとは言い難いが、会議等の終了時間は、厳守された。勤務時間について4月から10月までの実績が昨年比約10%の削減になっており、十分達成できている。	A	・職員間で、残業を減らしていこうという意識が出てきており、年間の時間外勤務について、前年度よりも削減され、効率的な業務を遂行していくことができた。	A	・授業以外もやる事が多く、大変だろうと思う。持ち帰りの仕事などがないよう、家庭ではオン・オフをリセットしてほしいと思う。 ・人を相手の職業なので、簡単に残業を減らすことは難しいと思われるが、何事も段取りが大切かと思う。
	○学校行事の精選と会議の効率化	○教育的価値の費用対効果の低い行事の削減と会議の削減。	・業務の重複、無駄を省き、前年比5%の行事と会議。　・積極的な未然防止指導と保護者への確実な説明等、迅速かつ組織的な対応。	B	・家庭訪問や学級懇談会の削減、職員会議の精選を行うことができた。十分な協議時間が確保できなかったが、週1回の連絡会で協議の補充ができた。 ・行事が立て込む時期があり、次年度は負担感のないような計画が必要であった。	B	・本年度は、行事等の精選をしながらの教育活動であったが、なくしてもよい活動や形を変えて実施する活動など、検討しながら進めていき、来年度につなげることができた。	A	・保護者と連絡および話し合いの場は考えてほしい。 ・新型コロナの影響で、必然的に省略、縮小せざるを得ないことが、結果、効率化につながる機会になったのではと思う。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○地域と連携した教育活動	○地域・保護者と学校の連携・協働	○地域人材（保護者を含む）をゲストティーチャーとして授業に生かし、体験学習や環境学習等の充実を目指す（学年2回以上）。 ○地域から支援を得ることによって子どもの生きる力の育成、学力向上など学校課題を改善する。	・年間指導計画の見直しを行い、効果的な地域人材を活用した授業を行う。 ・地域への発信・要請を行い、学力向上サポーターを募集し、週2回放課後学習会を行う。	B	・新型コロナウイルス感染の状況で左右されたが、外部講師に来校してもらい、学ぶことができている。（地域の食品衛生管理者手洗い指導、ゆめ佐賀大学環境学習等） ・地域学習サポーターが4名、3年4年の放課後学習に来ていただき、既習学習の定着を図ることができた。	B	・地域学習サポーターの方には、年間を通じ、週二時間の放課後学習へ参加いただき、習熟が十分でない児童に支援をしていただくことができた。 ・年間を通し、新型コロナ感染拡大の状況を考えながらで、急遽、実施を取りやめた行事もあった。	B	・家庭科の授業など、保護者や祖母が一緒にサポートするような形で学校に入れたのは、互いによかったのではないか。 ・気になる学年への対応に保護者や地域の協力、連携が必要であると感じた。
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知徹底及び施設設備や教育活動の安全チェックを定期的に実施する。 ○児童の交通事故0をめざす。 ○避難訓練及びその事前指導等を通して児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・年3回の避難訓練等の安全指導を強化し、教職員間の危機管理マニュアルを共通理解する。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員との連携を強化し、情報を共有することで児童の安全を確保する。 ・登校の自己評価及び定期的な集団下校を実施することで、交通安全への実践的態度を養う。	B	・1学期に不審者対応避難訓練を行ったが、緊急通報システムの作動、不審者への対応、体育館避難等の問題点に気付いた。夏休みに職員間で研修を行い、危機回避マニュアルの共通理解を図った。 ・登校班長への腕章の配布や毎月の登校状況のふり返りをさせた。意識が高まってきてはいるが、まだ十分ではない。各家庭やボランティア、警察署、交通指導員と一層連携を強化し、職員全体で歩調を揃えて指導していく必要がある。	A	・地震・津波対応の避難訓練は、効果的で実際的な訓練を実施し、危機回避能力を身につけさせることができた。また、実施後の問題点をもとに全職員間の研修会を実施し、危機回避マニュアルの共通理解を図ることができた。しかし、火災対応の避難訓練は、新型コロナ感染症対策のため実施することができなかった。 ・毎月の登校状況のふり返りより優秀班への表彰をした結果、意識が高まり危機回避能力を身につけつつある。今後も、各家庭やボランティア、警察署、交通指導員と一層連携を強化し、職員全体で歩調を揃えて指導していきたい。	A	・以前より登校班が乱れてきている。時間に遅れてくる子が、迷惑をかけている意識が希薄になっていると思う。 ・避難訓練の意識付けがよくできていると思う。 ・突然の有事に困惑しなくてよいように、事前に想定し、備えをお願いしたい。
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○個別の教育支援計画・指導計画、支援シートの作成100%。 ○特別支援教育に関する専門性の向上。 ○情報共有を定期的に行う（月１回）。	・個別の教育支援計画・指導計画、支援シートの作成のための研修を行う。作成する期間を決めて組む。 ・年3回、特別支援教育に関する研修会を実施し、理解を深める。 ・校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議等でも定期的に情報共有の機会を設ける。連絡会では、テーマを決めて行う。	A	・個別の支援計画・指導計画、支援シートについては、必要児童については作成を済ませている。 ・5月の特別支援学級と通級指導教室の公開授業、夏休休業中の特別支援教育の研修会の2回の研修会が実施できた。 ・学年当初気になる子どもについては、全クラス報告し、共通理解を行った。しかし、毎週の連絡会では、各クラスの気になる子どもの報告におわっている。今後は手一マを決めて、児童理解や支援の共有を進めていきたい。	A	・毎週の連絡会を利用して、気になる児童の問題行動やその後の様子など共有をしてきた。校内教育支援委員会（3回）を実施し、支援を必要としている児童の理解を深めることができた。 ・次年度へスムーズな引き継ぎができるように、学年の記録や個別支援シートをのこしている。	A	・支援の内容や方法は、児童それぞれで違うと思うが、職員間で共通理解を図り、チームとして対応をお願いしたい。 ・多くの支援を必要としている児童に対し、指導・支援が充実していると思われる。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	①学力の向上・・・「マイプランの達成」「校内研究の充実」などの職員の努力目標については、達成はできつつある。しかし、児童の学力への結びつきが十分にできているとは言えず、次年度、児童の学力へどう生かしていくのかが課題である。 ②特別支援教育の充実・・・学校内の特別支援教室や通級学級や普通学級における個別の支援が必要な児童について、さらに学校全体で共通理解を図り、全職員で支援を続けていく組織づくりが必要である。 ③心の教育・生徒指導の充実・・・教育相談や心のアンケートで児童の悩みについての把握やケアができている。次年度は、個別支援と学級支援の双方を十分に実践できるような計画づくりを図りたい。 ④体力の向上・・・食育の重要性については、児童、保護者とも高い意識付けができているが、朝食が喫食できずに登校している児童もあるので、改善を図れるように働きかけたい。また、スポーツチャレンジをきっかけに、運動に楽しんで取り組む児童を増やしていけるような取り組みを計画したい。 ⑤校内研修の充実・・・すべての学級担任が研究授業に取り組み、国語科についての研究推進が実践できた。次年度は、「主体的に学ぶ児童」について研究を深め、全児童に還元していくような研究としていく必要がある。 ⑥新しい学習指導への対応・・・「プロジェクトE」に係る１人１台端末を活用した授業改善を進めてきたが、今後さらに効果的な活用法について、他校の実践を取り入れながら、発展、応用させていきたい。